

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月25日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	中切 幹男	元萩原南中学校長
委員	皆越 眞佐代	NPO飛騨小坂200滝
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	河合 正博	下呂市観光商工部長
	森本 翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役(欠席)
	朽本 達治	朽本農園(欠席)
	山下 久美子	下呂看護専門学校長
	滝 景子	水明館 若女将
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	熊崎 秀樹	育友会長
学校側	佐藤 尚史	校長
	金山 実直	事務長
	小田 雅人	教頭
	可知 嘉文	教務主任
	打保 圭史	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 意見交流(今年度の取組や総合学科の学習成果発表会について)

意見1: 普通科も含めて全学科の学習成果や学習の様子を保護者、中学生、中学生の保護者等へ発信するとよいと思う。保護者と生徒との授業内容に対する満足度の違いがあるということは、保護者に対する十分な情報発信が十分ではないのではないかと。参観した総合学科の食文化系列の生徒の調理技術は高いものがあつたので、このような姿を保護者に見せられるとよいと思う。また、マスコミを使った情報発信も積極に行ってほしい。

意見2: 総合学科の学習成果発表会を参観し、生徒は目的を持ち、将来を見据えて取り組む姿勢が見られた。普通科の生徒は、将来の目標を定めている段階なので、進学していく生徒に地元企業などの情報を発信していることはよいことであり、地元との繋がりを高校生時点で築いておけば、将来Uターンするという選択肢を与えることができる。

- 意見3：ICTを効果的に活用できており、データを集計したり、プレゼンしたりする力が培われている。地域連携の中で地元企業が学校にとって役立つことを有意義に感じ、学校もまた企業の力を借りた進路指導を実践していくことは、両者にとってメリットがあるので、今後もこのような活動を積極的に推進してほしい。
- 意見4：校内の施設が充実しており、学習環境が整っている。また、生徒は気持ちのよい挨拶ができており、小中学校から継続された習慣が高校でも継続できていると思う。
- 意見5：最近、学校や職場に対して保護者が干渉する傾向が増えており、個に応じた指導が求められている。本日の学習成果発表を参観して、目標をもって勉強できることは、よいことであり、その生徒の長所となる。本日は、総合学科の3年次生が後輩に学習成果を発表していたが、普通科などは行っていないのか。
→普通科では、3年次生の進路決定者が自分の受験勉強の経験を2年次生に伝える機会をつくっている。
- 意見6：コロナ禍の中で充実した高校生活を送れたことに感謝している。また学校に登校できない状況であってもオンラインの学習支援で自宅から授業に参加できるので、とてもよい環境が整っていると感じた。成年年齢が18歳に引き下げられたが、保護者の意識も変える必要があるので、親が学ぶ機会を設けたい。法改正による自転車のヘルメット着用については、強要しすぎると、自転車に乗らない生徒が増えるのではないかと思う。時代の流れを見て対応していく方がよいのではないかと考える。
- 意見7：学習成果発表を参観して、コロナ禍の中でよく成長できたように感じた。ただ、発表の時は、きれいにまとめようとするのではなく、失敗を恐れず、もっと元気を出して、メリハリのある発表ができるとよい。
- 意見8：小中学校でインプットされた学びを、高校ではアウトプットする力を育ててほしい。本日の学習成果発表会のようにアウトプットする場を設定し、経験を積ませてほしい。また、毎朝の教員による昇降口指導はとても良いことで、ちょっとした声掛けによって、教員が生徒に寄り添うことができる。

6 会議のまとめ

第3回の学校運営協議会では、総合学科の学習成果発表会の参観と学習指導や生徒指導、進路指導の一年間の取組みを振り返り、意見をいただいた。各委員からは、一定の評価をいただくことができた。また、いただいた提言については、来年度からの学校運営の参考とする。